

平成30年度 放課後活動指導者研修 実施報告⑤

実施日：平成30年10月2日（火）

○講話

「よりよい放課後活動を目指して」 真岡市立真岡東小学校 放課後子ども教室 板口 千代子 氏
宇都宮大学 地域デザイン科学部 准教授 石井 大朗 氏



宇都宮大学地域デザイン科学部の石井先生に、今後の放課後活動の考え方についてまとめていただく講師役と、受講者同士の情報交換を促すファシリテーター役という一人二役をお務めいただき、研修最終回として研修全体のまとめを進め、今後の放課後活動の在り方についてその方向性を確認していきました。

最初に、一日の流れと当日の研修の目標を確認し、その土台となる情報をご提供いただきました。

次に、真岡市立真岡東小学校放課後子ども教室の板口千代子さん、また発表補助として真岡市教育委員会生涯学習課の中三川嵩主事より、日々の活動について事例発表をしていただきました。受講者は、遊びの材料選びや遊びの種類など、活動について工夫している点に触れることができ、また、利用している施設、設備等の条件の違いや抱えている悩み・課題について知ることができました。



その後、石井先生から、活動の在り方をチェックする方法として「組織の運営の在り方」「組織のマネジメント」の視点についてお話しいただきました。活動のスキル自体を上げていくことは当然必要なことですが、活動自体を俯瞰的に捉え、振り返り、見直しをすることも大切であることを伝えていただきました。

板口さんの事例発表、石井先生の講話を受け、付箋への記入により、受講者から質問や感想などをいただきました。時間の関係で一部ではありましたが、それらについて板口さんや中三川主事、石井先生から御回答いただきました。



受講者同士のコミュニケーションも図ることができ、お互いの活動の情報交換もすることができました。

先月、「新・放課後子ども総合プラン」が国より発表されました。凝り固まった視点ではなく、いろいろな視点、柔軟な思考で今の活動を振り返り、改善して、よりよい放課後活動を創りあげていただきたいと思います。

★ 受講者の声 ★

- 放課後子ども教室と学童クラブとの協働が活発に行われることの必要性を感じました。
- 組織運営の仕方にいろいろな視点があることが分かりました。自分たちの教室に合った方法を探っていきたいと思います。
- ボランティア、行政職員など、それぞれの立場で抱えている悩みや課題が共有できて、参考になりました。
- 当初考えていた放課後活動の意味とは違い、地域づくりにとても深く関わっていることを学ぶことができました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206

E-mail: shogai-c@tochigi-edu.ed.jp